

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201819		
法人名	医療法人 梶田医院		
事業所名	グループホーム みのりの里 コスモス		
所在地	長崎県佐世保市南風崎町119-4		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	令和4年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 3年 11月 25日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりがいつまでも自分らしい生活を送れるように、職員は理念を共有し傾聴を大切にしながら、その人のペースや好み、状態に合わせた個々の支援に取り組んでいます。人生の最後の時まで、ご本人らしく過ごしていただけるように、ご本人やご家族の思いに寄り添いながらの支援に努めています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は母体医療機関に隣接しており、利用者・家族の安心に繋がっている。新型コロナ禍以前は、家族の協力を得て、利用者は頻りに外出しており、外食や外泊など本人の希望を叶えるよう支援していたことが窺える。事業所独自のケアシートは、記入するために本人をよく見る、よく知ることが必要となり、職員全員で共有することで質の高い介護計画に反映していることは、特筆すべき点である。コロナ禍で面会が自由にできない家族の気持ちに寄り添い、一人ひとりに写真入りの便りを送っており、少しでも不安を軽減できるよう配慮している。手作りの食事は、利用者の希望を聞き取り、ちらし寿司や茶碗蒸しなど好物を提供し、食欲低下を防ぎ、楽しく食事ができるよう工夫していることがわかる。看取りでは遠方の家族に連絡を取り、最期を迎えた事例もあるなど、利用者だけでなく家族の心のケアにも注力し支援している事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関入り口、事務所等に掲げ、常に把握と共有できるようにしている。職員は理念を念頭に入れ、実践できるように努力している。	玄関など職員、利用者・家族や訪問者等、常に目につく場所に掲げてある。更に事務所兼休憩室、職員用手洗いには、理念に基づく4つの介護目標も同時に表示しており、職員がいつでも理念や介護目標に立ち帰ることのできる環境を整えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店や米屋さんなどを利用したり、地域の清掃活動に参加している。	新型コロナ禍以前は、近隣にあるこども園の園児たちとの交流や公民館での行事への参加など、積極的に地域との交流を行っている。現在は新型コロナ収束後を見据え、職員がこども園にプレゼントを届ける他、地域の清掃に参加するなど、関係継続を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年、地域の活動や講演会等に参加しているが、昨年より新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、実現できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス拡大防止の観点から、書面での会議となっているが、書面での意見交換を行い情報の共有の場となるように努めている。	新型コロナ禍で書面会議となっており、関係機関との間で、書面での意見交換が活発に行われていることが、報告書にて確認できる。また、会議の資料と利用者の生活の様子を伝えるコスモス便りを同封する工夫によって、家族からも返信が得られるようになってきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者が必要に応じ連絡を取り合い、相談や助言をいただいている。コロナ禍のため、メールやFAXでのやり取りになっている。	近くに市役所の支所があり、提出物は支所に出向いている。また、介護現場に必要な古新聞を支所の職員が収集し渡す等、協力関係を築いている。新型コロナ禍において市主催の研修は、オンラインであり、法人の各事業所の管理者参加の下、受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を行い(コロナ禍のため書面にて)身体拘束については理解している。身体拘束をしないケアを行い、見守りを強化し、危険のないように努力している。	新型コロナ以前は外部研修に参加しており、現在は、法人内の勉強会の資料を職員全員で読み合わせ、自身のケアを振り返る機会を設けている。言葉による拘束にも配慮し、現場で不適切な発言があった時など、お互いに注意できる人間関係を構築している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内勉強会を行い(コロナ禍により書面にて)虐待防止について知識を深め、安心して生活していただけるよう、防止に努めている。		

グループホームみのりの里コスモス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度についての研修があれば参加し、理解を深めるようにしていたが、新型コロナウイルス蔓延防止のため、研修がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書に従い、十分に説明を行い、ご家族に安心していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来館時や電話があったときには、意見を聞くようにしている。利用者様からは日常の中で聞き取るようにしている。また、玄関には意見箱を設置している。	玄関先に意見箱を置いており、家族に説明している。家族の訪問時に要望等を聞き取っており、新型コロナ禍で面会できないことについて再開の要望があり、事業所は感染予防対策を徹底し面会できるよう配慮している。状況については細かく電話で知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	基本的に意見の言いやすい雰囲気づくりを心掛けていて、職員の意見や気づきを会議で話し合う機会がある。	代表は、毎日事業所を訪れ、職員が話せる機会を設けている。職員の希望休を聞き取り、シフトを作成している。職員の様子に変化があった時には、施設長から声を掛け話を聞くよう心掛けている。これまでに職員の提案で、利用者支援について縄跳び運動や貼り絵の作品作りなど反映した事例は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間や休日の取得などに配慮を行っている。また、就業時間や職務内容によって処遇の改善を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格の取得については積極的に推進しており、研修を受ける機会を設けたりしていたが、コロナ禍で、研修等が中止のため、施設内研修にて補っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東部グループホームブロック会議や交流会には積極的に参加していたが、新型コロナウイルスの影響で、会議や交流会の開催がなく交流できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人との面談を行い聞き取りをし、入所後もコミュニケーションをとりながら、生活パターンを把握し傾聴に努め、安心して相談していただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の説明の時に、ご家族の要望や不安なこと、お困りごとを伺い改善できるように考慮し、入所後も安心して生活できるように、より良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にかかわりがあった施設や担当ケアマネに意見を聞き、必要な支援を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりのやりたいことやできることを取り入れ、役割や、やりがいを持って生活できるよう環境作りを心掛け、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス蔓延防止のため、面会や外出・外泊ができなくなったが、米館時には、窓越しに顔を合わせてもらい、電話では声を聴いて安心してもらえるように、こまめな連絡を行い、近況を伝え絆を大切に支えあえるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・家族・知人の方々との面会は、コロナ禍のためできなくなったが、手紙や電話で関係が途切れないように支援に努めている。	新型コロナ禍以前は、小学校時代の同級生や料理教室の教え子等、家族以外の馴染みの人が訪れている。現在は、家族から利用者宛てに毎月手紙が届いている他、携帯電話を所持している利用者は日常的に家族に電話を掛けて会話している。遠方の家族には手紙や葉書を送るなど支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間やレクレーションの時など利用者同士のかかわりを持ち、コミュニケーションが取れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報交換や相談があれば対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で得た情報を皆で共有し、本人の思いや願いを知り、支援に生かすようにしている。	入居時に本人・家族に生活歴を聞き取っている。難聴の利用者には聞こえる側に話し掛けたり、表出困難な利用者は職員が問い掛け、その反応や表情で汲み取り支援している。ただし、把握した生活歴等を収集し支援に役立てる工夫はこれからである。	一人ひとりの生活歴等を収集する工夫から、会話の糸口や支援に繋がると期待できる。検討、取組が望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の本人や家族とのアセスメントや関係機関からの情報を得て、生活歴を把握し、入所後の生活においても情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態や表所の変化に気づけるように毎日の体調観察に努め、朝のミーティングで過ごし方や現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスや定期手にモニタリングを実施し、入居者の現状に沿った介護計画を立てている。	定期的なモニタリング、カンファレンスで、状況に即した支援となっているか検討している。職員2人で1人の利用者を担当し、思い込み支援にならないよう工夫している。また、全職員が各利用者にどのような支援を行ったか、今後の支援への思いをケアシートに記入しており、職員全員が関わり介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化をケース記録や日誌へ記入し、朝のミーティングで情報を共有し、どの職員も同じ支援ができるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や意向に応じて柔軟な支援を心掛けている。		

グループホームみのりの里コスモス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の出来事に関心を持ち交流ができるよう民生委員や包括と情報交換をしていたが現状は新型コロナウイルスの影響でできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人つご家族の意向に沿い、主治医や専門医との連携で受診や往診を行っている。	母体の医院が隣接しており、毎日往診がある。専門医や救急病院との連携がある等の理由で、入居時に母体医院をかかりつけ医に変更する利用者が多い。新型コロナ禍では、他の病院を受診できない利用者のために、母体医院で処方箋を出すなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化や気づきを看護師に相談し医師との連携を図り、指示や助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換や連携を図って、施設復帰できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化への指針に基づき入所時に説明し、状態に変化があれば家族とともに考え、気持ちの変化等も視野に入れ協議している。本人や家族の思いを受け止めるように努めている。	契約時に家族に重度化や看取りの指針を説明し同意の旨の署名を得ている。家族の揺れる気持ちを考慮し、状態の変化に応じ何度も意思を確認すると共に、正しい情報入手のため医師や看護師との面談を勧め、本人や家族の意向に沿った最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルをもとに、発生時にはすぐに対応できるように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に避難訓練を実施している。有事の際には地域の方の協力をお願いしている。非常持ち出し品の整備もしている。	新型コロナ禍では、例年の消防署立会い及び地域住民参加の訓練はできていないが、2ヶ月に1度、さまざまな想定のもと「職員も利用者の命も守る」をモットーに自主訓練を実施している。建物内に留まることを考慮し、食料や水は3日分確保している他、おむつ、布団等の整備している。ただし、利用者個別の情報についてはこれからである。	利用者の写真をファイルにまとめ、避難時に持ち出すことになっているが、利用者が複数箇所の避難所に搬送された場合でも、利用者の正しい情報が避難先でも共有できる工夫が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にし、言葉使いや対応に気を付けている。家族には個人情報に関する同意書も得ている。	職員は利用者を苗字にさん付けで呼び掛けており、視線を合わせて会話している。個人情報適切に保管し、便りに載せる写真は個別に作成しているなど丁寧な対応が窺える。失敗時にはさりげなく声掛けし職員間で連携して対応しており、利用者の尊厳に配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを傾聴し理解をして、自己決定ができるように手助けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく安心してゆっくりできる居場所や時間の提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりのペースに合わせて整容の声掛けを行っている。希望により美容師の訪問があったが、コロナ禍のため、中止している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜や果物などを取り入れ、家庭的な献立になるように利用者の希望もお聞きしながら、立てている。一人一人の咀嚼力や嚥下力に合わせて楽しく食事できるように提供している。	あらかじめ1週間の献立を立て、職員が交替で調理している。利用者の状態に合わせてキザミやトロミ、ミキサー食など対応している。おやつレクでは蒸しケーキやホットケーキを作り、誕生日にはケーキで祝っている。弁当を頼んだり、ちらし寿司や茶碗蒸し、正月には雑煮や祝い膳が並ぶ等、利用者が喜ぶ料理を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や食事の変化に配慮した、一人ひとりに応じた栄養や水分量の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの言葉かけをそれぞれ、その方のタイミングで行い、できない方には職員がその人に応じた行動をしている。		

グループホームみのりの里コスモス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援を個々に行っている。	トイレは居室に設置しており、利用者は順番を待つことなく、各人が自由に居室にて排泄している。職員は排泄チェック表に記録し、確認しながら誘導し本人の排泄の自立を支援している。家族の要望を受け、リハビリパンツから布パンツに改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表により、排便コントロールを行い、日ごろから適度な運動と水分量の確保や乳製品を用いることで予防にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調やタイミングに合わせて無理のない入浴の支援を心掛けている。季節を楽しめる入浴となるように工夫している。	入浴は週に2回を基本としている。体調不良の場合は清拭や衣類を交換している。ゆず湯や菖蒲湯を提供する他、薔薇を栽培している近隣の業者から薔薇が届き、浴槽に浮かべて楽しんでいる。入浴拒否の時には、時間を置いたり声掛けする職員を替えるなど工夫している。ただし、入浴回数や清拭、衣類交換に検討の余地がある。	一日に9人の入浴支援を行っているため、週に2回となっているが、入浴回数を増やす検討、工夫が望まれる。また、入浴しない日の清拭や衣類交換は、清潔保持のために取組に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が安心して休息ができ、日々の日課に取り組み日中を活動的に過ごせることで、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬情の理解に努め、情報の共有を職員間で行い、服薬前には複数回確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせた役割やレクリエーションの提供や、本人の申し出により生活レクでの達成感や充実感を味わうことで気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時に戸外の花壇を見たり散歩などの支援を行っていたが、コロナ禍のため、実現できなかった。	新型コロナ禍前は、家族が付き添い病院や外食に出掛けており、現在は家族との外出は困難であるため職員が月毎にリビングの飾り付けを工夫し気分転換を図るよう努めている。また、日常的にはリビングで日向ぼっこしたり、可能な範囲で屋上の洗濯物を取り込んだりできるよう支援している。	



グループホームみのりの里コスモス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額を手元を持つことで安心されている方もおられる。ほとんどの方は家族が管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方は頻繁に家族や友人と連絡を取っておられる。絵葉書や手紙のやり取りもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人の心地よい居場所の提供と安全への配慮を工夫し、環境整備を行い、空調や照明等にも配慮している。	リビングと台所は一体で、調理する職員と利用者は常に互いに目が合う環境である。調理が進むと美味しそうな匂いが漂う様子は、一般家庭同様である。新型コロナ禍で外出ができないため、数々の装飾で季節の移ろいを感じられる工夫があり、また、掃除や除菌も徹底しており、快適な空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係性を考慮し、時間や居場所等の環境を整備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思入れや使い慣れたものの持ち込みや本人が好むしつらえを考慮しながら、安全に配慮した環境作りを工夫している。	利用者の趣味にあった飾り棚や装飾を施す等、利用者と家族が相談しながら、本人らしい空間づくりとなっている。また、各居室にはトイレがあり、利用者の羞恥心に配慮している様子が窺える。居室は、毎日、職員による清掃で清潔を保持し、明るく個性的な生活ができる環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできること、わかることを把握したうえで、本人の思いと安全に配慮した環境整備を行い、自立した生活の継続を支援している。		